

【教育目標 夢中になる とともに創る】



きらきら



新潟市立沼垂幼稚園
園だより
令和7年6月11日発行

沼垂幼稚園 111 年目 大切にする3つの「一」★★★「一人一人」「一緒に」「かけがえのない一年」★★★

遊びを通して豊かな感覚を育む

園長 関根 秀也

先日、幼稚園・保育園・こども園・小学校の連携事業の一環で、小学校1年生の授業の様子を参観してきました。姿勢よく先生の話聞く姿、友達と相談して答えを導く姿など、張り切って学習する1年生の姿にとっても感激しました。また、「新しい園長先生だ」「こんにちは」と言って、修了生と直接の関わりが少ない私にも温かく声をかけてきてくれて、とてもうれしくなりました。

参観した算数の授業では、「いくつといくつ」という学習で「10の合成と分解」を学んでいました。たし算の学習につながる大切な学習でした。先生が「じゅう（10）は、いち（1）ときゅう（9）」、「じゅう（10）は、に（2）とはち（8）」、「じゅう（10）は、さん（3）と・・・」と途中で言葉をとめると、1年生の子どもたちは「なな（7）」「簡単だよ」と誇らしげに答えます。「さすが1年生の皆さんです」と先生は続けます。「じゅう（10）は、よん（4）と・・・」、1年生の子どもたちは「ろく（6）」「先生が問題を言う前から分かったよ」と、この後の「10は5と5」も順調に答えることができました。先生は、1年生の発言を言葉と数字で板書に表します。

次に、友達とペアになって10回ジャンケンをして、勝った方が10このおはじきの中から1つもらうというルールで、おはじきで「10は、□と△」を実際に作ることを楽しみました。

そして、おはじきを片付けて、先生はノートに「10は○と○○○○○○○○○○」と○（絵図）で表すように働きかけました。先生は、タブレットを活用して実際のノートをモ

いくつといくつ

10は、1と9

○と○○○○○○○○○○

10は、2と8

○○と○○○○○○○○

10は、3と7

10は、4と6

10は、5と5

ここからは、自分でやってみよう

ニターに映し出して、書いて見せながら丁寧にやり方を示していきました。1年生の子どもたちは「よし」と言って、自分のノートに勢いよく○を書き始めました。

すると、手が止まり、先ほどまでの明るい表情ではない1年生を見かけました。これまでの授業の様子で特に変わった様子はなし、幼稚園時代の遊びの場面では、積み木の数、種の数、空き容器の数…数を数えることができていた子のようにです。どうやら、実際の数と「○・□」や「1・2・3～10」がうまく結びついていない、つまり、日常生活の中の「数量」と「絵図や数字」に隔たりがあるようなのです。

この様子から、幼稚園で、生き物の数を数える、見つけた宝を数える、鬼ごっこで捕まえた人数を数えるといった遊びの中で数を意識している子どもの姿があった時には、これまでも大切にしてきましたが、対象物を並べたり指を差したりして数える、数えた対象物を別の物の数と比べる、対象物を数えながらその絵を描く、数えた対象物の数や特徴を友達に伝えるなど、遊びの中で数量の感覚を豊かにするような経験があらためて大切であると感じました。大人が先回りをして数や数量について一方的に教授する(数のお稽古など)のではなく、遊びの中で、実際の数、絵図、数字、それぞれがつながりあうような環境の構成を工夫して、無理なく自然に楽しく数や数量と関わって、実感が伴った豊かな感覚を育んでいきたいと考えます。そして、そのときの子どもの姿や遊びを通した学びの過程を小学校と共有して、幼稚園と小学校を円滑につないでいきたいと思います。

手が止まっていた子は、その後、先生や友達からアドバイスをもらいながら、ノートに○をしっかりと書くことができました。そして、笑顔になっていました。

今月の「きらきらな笑顔」

お宝はどこかな？ あそこかな？
ひとつ、ふたつ・・・いっぱいあったよ！



小学校のお庭は広くて気持ちがいいな。
坂を走ると、気持ちがいいよ！